

岩国医療圏地域医療構想病床機能検討部会（令和元年度第2回）議事概要

【日時】令和元年11月26日（火）19:00～20:15

【場所】岩国総合庁舎1階 入札室

【出席者】市医師会長、病院関係者、市担当者 等

- 有床診療所について、地域医療構想の達成に向けた対応方針を協議した。
- 国が示す「具体的対応方針の検証に向けた議論の整理」への対応について説明、協議を行った。
- 「山口県医師確保計画」及び「山口県外来医療計画」（素案）について情報提供を行った。

【議事内容】

1 有床診療所の2025プランについて

事務局から、有床診療所の「医療機関2025プラン」における今後の方針及び具体的な計画について説明を行った。

（主な意見・質問等）

- 一部を除き各有床診療所ともに現状維持のプランであるが、現状や地域の医療事情からやむを得ない。

2 国が示す「具体的対応方針の検証に向けた議論の整理」への対応について

県医療政策課から、国における医療機関の具体的対応方針の再検証に係る考え方、岩国圏域の3病院が公立・公的医療機関の再編統合に係る再検証の対象となった理由等について、説明を行った。

（主な意見・質問等）

- 岩国市立美和病院と同錦中央病院は、へき地に派遣される自治医大卒の医師で維持されているような状態であることから、玖北地域の医療を全体的に考えた上で、医師負担の観点からも、集約等拠点化を図る必要がある。
- 民間病院についての再編統合に係る再検証データを公表すれば相当な混乱が予想される。民間病院は設立母体の違いや経営基盤などの事情があり、国が一方的に統合を進めるということには問題がある。
- 急性期後の患者を受け入れる慢性期病床の確保もしておかなければ、急性期機能を持つ病院に支障も出る。

3 「山口県医師確保計画」及び「山口県外来医療計画」（素案）について

県医療政策課から、同計画素案に関する情報提供を行った。

(主な意見・質問等)

- リタイヤ（退職）する高齢医師の後継者不足が懸念される。
- 初期臨床研修で県内に残った研修医も、専門医を取るために県外へ出てしまうことから、大学での専門医養成に係る方策について検討していく必要がある。
- 医師確保に関する成功事例を一つひとつ取り上げて、失敗を恐れず、一人ひとりの医師確保に努めていく必要がある。それぞれの医療機関での個別の取組みと、行政の施策がうまくかみ合えば良い結果につながると思う。
- 産科医、小児科医の確保が喫緊の課題であり、後継者となる医師を確保していく必要がある。
- 高齢者の人口は横ばいで、若年者が減少している当地域の人口動態を踏まえ、将来的な医師の分布や慢性期病床の必要性を考える必要がある。

4 その他

具体的対応方針の再検証の対象とされた病院の2025プラン上の病床数について必要に応じた修正を行うことの確認を行った。